

短期集中講座 第8回その二 メモ

以下に示す日本語表現は、テクニカルターム以外は表現・レトリックの問題なので、唯一の正解と受け取らないように。

ページ1、第一パラ

La bonne nouvelle : よく「グッドニュース」「バッドニュース」という表現を聞く。「良いニュース」...とどちらにするかは個人の好みかも。

en chemin : (*Petit Robert*) **en cours de route**

ここでは「そこに至る道を歩んでいない」とか。

en tout et pour tout : 『小・ロ』を引いてみたら **pour** の方に成句として :

全部合わせて(やっど)、一切合切引くくめて、後にも先にも。

ここでは、「まだ排出できるCO2の量は325ギガトンぽっきり」てな感じ?

budget carbone : カーボンバジェット。但し、この表現自体の定義を探すと、日仏語とも「人間活動を起源とする気候変動による地球の気温上昇を一定のレベルに抑える場合に想定される、温室効果ガスの累積排出量(過去の排出量と将来の排出量の合計)の上限値」とある。

しかるに本文では

Pour rester à 1,5°C, l'humanité peut encore émettre en tout et pour tout 325 gigatonnes de CO2. Au rythme actuel, ce «budget carbone»...

と書いてあり、明らかに今後まだ排出可能な量として使われている。訳者の裁量で「今後まだ排出可能な」バジェットと付け加えるしかないか。

Au-delà : 「約25年後以降は」

scénario espéré : 「理想的なシナリオ」はやはり **scénario idéal** ではないか。

le grand écart ... et la réalité s'explique : その差はこれこれの事情、要因で説明できる、つまり「その原因は」「それは...のためである」など。日本語には無いレトリックであり、into French の際に使えるようにしておくのが良い。

atteindre la neutralité carbone : 訳してくれたように「カーボンニュートラルを達成する」など。

centrale à charbon : 石炭火力発電所。「火力」を入れた方が良い。

mieux isoler les logements : 「住宅の断熱を改善する」「断熱性能を上げる」

pompe à chaleur : 日本語の「ヒートポンプ」は、エアコン、冷蔵庫、給湯器などに用いられる技術を指すように思われるが、記事では明らかに、暖房設備に取って代る装置として語られている。

La pompe à chaleur (PAC) est un dispositif qui se base sur les énergies renouvelables (air, eau ou terre) pour produire de la chaleur (ou du froid si elle est réversible). C'est une excellente alternative au chauffage gaz et fioul. Elle permet d'allier confort et économies d'énergie, avec un impact moindre sur l'environnement.
<https://monexpert-renovation-energie.fr/chauffage/pompe-a-chaleur>

processus industriels : 「製造工程」が標準的な訳し方。

chantier : (*Petit Robert*) travail, projet de grande envergure.

Le chantier est gigantesque.

「そのような大きな仕事は膨大で…」は余りおさまりが良くない。実は、

L'enjeu est important.

にも同じ問題がある。何十年も悩んだ末に(笑)辿り着いた訳し方が、

「これは膨大な仕事、企てである」

「これは重要な課題である」

勿論、唯一無二の訳し方ではない。

ページ1、第二パラ

optimiste : -isme, -iste とあるとつい「...主義(者)」と訳してしまうのはそろそろ卒業しよう。「楽観論(者)」など。fatalisme, -ste も同様。

stratégie/tactique : これは余程のことが無い限り「戦略/戦術」。その違いは各自調べること。

cercle de réflexion : 授業で説明してくれた通り、Energy Transitions Commission で検索すると「シンクタンク」とあった。Bravo! 仏語の表現からは思い付かなかった。

déterminer : (*Petit Robert*) indiquer, délimiter avec précision, au terme d'une réflexion, d'une recherche. 「特定する」「突き止める」など。この単語を見たら「決める」といかないように。idem pour “définir”.

transition climatique : 「気候変動対策のための移行、トランジション」これをどこまで簡略化できるかは、文脈次第。

ページ2、第二パラ

Explication : 「どういうことか(と言うと)」

de l'éolien, du solaire : 「風力発電」「太陽光発電」。部分冠詞に注目。

une éolienne, un panneau solaire : 「風力タービン」「太陽光パネル」

four à arc électrique : 「アーク炉」。いわゆる電炉メーカー(鉄スクラップから鋼材を生産)で用いているもの。

ordre de grandeur : 「およそ、規模」。

ページ 2、第三パラ

mécaniquement : 「機械的に」からここでは「自動的に、当然のことながら」。
「力学的に」はこの文中では無理と認識して、他の意味を探して欲しい。

réallocation des flux financiers vers moins de consommation

「資金の配分を変更して」の後に **vers moins de consommation** と続けるのは、仏語としても無理があるような気がするが、書いてある以上その意を汲み取るしかない。日本語でも、偉い学者先生の講演原稿なのに文法的に変だ、でも意は伝わってくる、という経験をしたことがある。

ここでは「投資に資金を振り向けねばならないので、消費に回る分が減る」との意。

coût net : 辞書には語義として「正味の」「掛け値のない」しか載っていないが用例に **bénéfice net** 「純利益」とあるように、加算される要素、引かれる要素を全て合わせると、つまり「差し引き」幾ら、の意。

ページ 3、第一パラ

l'économie mondiale s'est remise du choc pétrolier, preuve que l'obstacle n'est pas insurmontable

preuve は直前の節と同格で、この節が **que** 以下の証明になっている、との意

ページ 3、第二パラ

faire payer les émissions : 「(CO2 排出量に応じて) 課金」など。炭素税、カーボンプライシングなどの用語を検索しておくこと。

changement d'organisation de l'économie : **organiser, organisation** を直接訳そうとすると困ることが多い。日頃から料理の仕方を工夫しておくことが望ましい。ここでは「経済構造の変化」しか思い付かない。

à forte intensité carbone :

炭素集約度(エネルギー消費量単位当りのCO2排出量)が高い

ページ 3、第四パラ

secteur privé : 民間部門。私企業でも良いけど...

rentable : 採算が取れる。「儲かる」という場合もある。

ページ 4、第一パラ

sans appel : 控訴のしようが無い、つまり議論の余地が無い、どうしようもない

planification : 「計画化」は中々使いにくい。「計画的な行動」などと言葉を添えるのが良い。

politiques publiques : 日本語で「政策」と言えば政府または地方自治体のものを意味するので、**publiques** は訳す必要なし。

normes environnementales : 普通は「環境基準」。**norme** はその他に「規格」と訳されることもあるので、文脈に合わせる。

dépenses publiques : 財政支出。「中央または地方政府が税金及び国債・公債発行によって得る資金の出入り」に関することを一般に財政云々と言う。年金財政という表現もある。この資金を然るべき用途に支出するのが財政支出。然るべき用途でないことも多々あるが...

ページ4、第二パラ

froide logique économique : 「理論」と訳していた人がいたが、これは「論理」。**logique de marché** も「市場論理」。理論と論理の区別は自分ですること。

acteur incontournable : 「存在を無視できない云々」は良かった。それ以外には「避けて通れない国」など。**acteur** を直接訳するのは面倒。文脈に応じて、企業とか具体的対象を入れるのも一案。

ページ4、第三パラ

financier : 「金融」「財務」などの他に「金銭的」。クライアントから
Quelles sont vos conditions financières?
 と聞かれたこと無い？

âge moyen : 火力発電所について「築...年」という表現が見られないことは無いが、「運転開始後...年」という方が多いようだ。

reçu politiquement : 「選挙民にどう受け止められるか」と訳したが、言われてみれば「有権者」の方が適切。

ページ4、第四パラ

relever de (verbe transitif indirect) : (Petit Robert)
être ds la dépendance (d'une autorité supérieure)
être du ressort de
dépendre de
être du domaine de

a) ce qui relève du cœur ou de l'esprit

b) "Tout ce qui est conventionnel et traditionnel relève [...] du poncif" (Baudelaire).

c) Sa guérison relève du miracle.

a), b), c) を日本語らしく訳して、**relever de** の感覚を掴もう (ゲームのCMスタイルを真似てみた)。

faire tourner les modèles : 「コンピュータ上で経済学的シミュレーション・モ

デルを動かす」と思ったのだが、検索すると意外にそういう表現が見当たらない。
「コンピュータ上で経済学的モデルによるシミュレーションを行う」
というのが一番正確そうだが長い。
「(提供された)モデルでシミュレーションを行った」くらいか。

ページ5、第一パラ

finir par + inf. : 結局...になる、など。

ページ5、第二パラ

il est le premier à... : この議論において GDP が適切な尺度でないことは、誰よりも良く知っている、それを知っているという点では誰にも引けを取らない。

production de CO2 : production がうまく訳せない時は produire という動詞から来ていることを思い出す。すると、文脈に合わせて「CO2を排出」という訳を思い付くのではないか。

information についても同様。「情報」とだけ覚えるのではなく、informer から来ていると考える。

La région PACA étant soumise à des risques multiples, les communes sont fréquemment concernées par un ou plusieurs risques naturels (inondations, incendies, mouvements de terrain, avalanches ou séismes) et technologiques. L'information des habitants est obligatoire notamment pour les acquéreurs ou locataires en cas des cessions ou locations immobilières.

(地方自治体は)住民に情報を提供する義務がある。